



真理はわれらを自由にする

別府大学 司書課程

News Letter

『司書課程ニュースレター』 第2号発刊にあたって



別府大学司書課程委員会
委員長 工藤 邦彦



別府大学文学部司書課程では、これまで多くの卒業生を現場の最前線である司書職として、大分県内・外の図書館に輩出してまいりました。そのような卒業生の動向も含め、ニュースレターでは司書課程の授業内容および各種事業の紹介、さらに文部科学大臣委嘱司書・司書補講習の全容について、わかりやすく発信する広報誌づくりに努めてまいります。

平成26年度は、新たに学校法人別府大学特別強化事業費助成金(別府大学GP学生支援)「図書館司書を目指すためのステップアッププログラム」を始めました。プログラムでは資格取得に向け、どのような職種を選ぶべきか、そのためにはどうやって技能や経験を獲得するか、授業外学修の一環として実施いたしました。本号でも紹介させていただいた「『読書へのアニメーション』体験講座」や「『図書館専門職への道』セミナー」など、今後も各種の講座・講演行事、図書館見学会等を積極的に実施する予定です。

昨今は図書館に対するニーズや地域課題の多様化など、図書館サービスの質の向上に 대응べく、カリキュラムの創意工夫が求められております。特に学校図書館法の改正に伴い、平成27年度からは学校司書養成の在り方についても検討せねばなりません。司書課程専任教員および担当講師一同、本学司書養成教育の歴史と伝統を堅持しつつ、地域発展の新たな担い手となるべく図書館職員の育成に努めていく所存です。さらなる課程・講習事業の充実に向けて取り組んでまいりますので、今後とも皆さまのご協力をご支援をよろしくお願い致します。

特集 子どもと読書

子どもの読書

いま、児童図書館の現場で問題になっているのは、絵本から文字の本へどうすればスムーズに移れるかということです。子どもたちが絵本を読んでもらうことは珍しいことではなくなりました。けれども字が読めるようになると、読み聞かせをやめる家庭が多いようです。字を読むことと、物語を理解することは違います。文字を音にし、音を意味にすることは子どもにとって困難な作業です。自分で本を読もうとすると、自分の理解力よりやさしい本を読むことになります。その子の理解力にふさわしい本をあたえようとする、誰かが読んでやらねばならないのです。

この頃の文学を幼年文学といいます。図書館によってもちがいますが、私は5・6歳から小学校3年生くらいを対象と考えています。この頃の読書のしかたは2つあります。ひとつは「自分で読む読書」で、子どもたちの選ぶ本の多くは、字が大きく、挿絵が多く、厚くないものになります。もうひとつは「読んでもらう読書」です。幼年文学には子どもたちの心の成長にそった楽しい作品がたくさんありますが、それらの多くは子どもが自分で読むのは難しいものばかりです。「自分で読む読書」も大切ですが、この時期に「耳から聞く読書」をたっぷり楽しむことが、後の読書生活の基礎をつくるのです。



高橋 伸子

(元別府大学非常勤講師・
現おじいさんのもり児童図書館)

図書館との出会い～図書館が私にくれたもの～

赴任して2年がたち、別府のまちにも顔なじみの人たちができるようになりました。そのせいか「なんで図書館のことをやっているの？」と尋ねられることがあります。どうやら一般的な図書館のイメージと私の雰囲気がなかなか一致しないようです。そこで今回は私と図書館との出会いについてお話しします。

図書館との出会いは、小学校に入学してはじめての「図書館」の時間でした。私が通っていた学校の図書館は、いつも鍵がかかっていて、司書も司書教諭もない“開かずの間”でした。それゆえ、私は図書館に対して「どんなヒミツが隠されているのか？」といった冒険心をいだき、ワクワクしながら図書館の時間を迎えたことをおぼえています。

しかし、そんな気持ちも最初だけでした。みんなと一緒に本を選ばなければならないことに気づくと、いっぺんに不安になったのです。それは当時の私にとって読むことは音読だったからです。私は何ごとに対しても自信が持てない気弱な子どもでした。なかでも大勢の前で話すことや本を読むことは、滑舌の悪さもあって特に苦手としていたのです。そのためなかなか借りたい本が決められず、最後は適当に選んだことを思い出します。このように苦労して借りた本でしたが、いざ読みはじめても文字を追うことに精いっぱい、お世辞にも“楽しい読書”とはいえませんでした。

そんな図書館の時間も3回目ごろでしょうか、私は館内の一角で日本史の図鑑を見つけました。ご存知のとおり、図鑑は絵や写真、図などが中心で文章はそれらを解説する程度しかありません。すすんで文章を読むことをしない私にはびったりの資料だったのです。最初はちょんまげ姿とチャンバラの絵をおもしろがっていたのですが、しばらく眺めているとその絵が何を示しているのか知りたくなってきました。すると、どうしてもその説明文を読まずにはいられなくなったのです。短い文章でしたが漢字も多く、フリガナを指差しながら夢中になって読みました。わからないことがあれば親たちに質問し、納得したらまた読みなおす。そのようなことを繰り返しているうちに、“わかる”ことへのおもしろさに目覚めていきました。そして図書館の時間も、義務的な時間からより詳しく・広く知りたいという“知的航海”の時間へと変化していったのです。

改めて振り返ると、これが私にとって初めての自発的な読書であり、“わかる”という満足感を通じて、心の内にあった自信が育まれていきました。そして私と図鑑を繋いでくれた図書館は、私に自分らしく生きるためのヒントを与えてくれたのだと思います。いま私が図書館に関わる仕事をしているのも、趣味や嗜好も、この経験が無縁ではないからです。

図書館は気づきの空間です。みなさんも図書館で自分だけの楽しみをみつけてみてはいかがでしょうか？ わからないことがあれば、図書館の司書や私に聞いてください。図書館はいつでもあなたを待っています。



石川 賀一

(別府大学文学部司書課程)

TOPICS

司書課程・附属図書館共催 図書館見学ツアーを実施

平成26年6月15日(日)、司書課程・附属図書館共催による図書館見学ツアーを実施しました。毎年恒例の企画となっている図書館見学ツアーですが、今年はTSUTAYAを経営するカルチュア・コンビニエンス・クラブの業務委託で話題の武雄市図書館(佐賀県)と自治体が経営する直営型の春日市民図書館(福岡県)を訪れました。

今回のツアーでは、学生が見学先の選定としおりの作成をおこないました。現在の公共図書館の今を知るうえでタイムリーな見学先であっただけでなく、学生自身の関心も高く有意義な見学ツアーとなりました。



平成26年度「図書館司書を目指すための ステップアッププログラム」セミナーの実施

今年度から学校法人別府大学特別強化事業費助成金(別府大学GP学生支援)を利用した「図書館司書を目指すためのステップアッププログラム」セミナーを実施しました。いずれの企画も学生の関心が高く、今後も継続していきたいと考えています。

— 第1回 —

情報専門職へのいざない～九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻進学に向けて～
(平成26年9月26日・メディアホール)

第1回は九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻准教授・附属図書館利用支援課長の渡邊由紀子先生をお迎えし、九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻の概要および大学院進学についての講演会を実施しました。



— 第2回 —

「読書へのアニメーション」を体験しよう!
(平成26年11月18日・別府大学ラーニングcommons)

第2回では、本学司書課程の非常勤講師である小田孝子先生によるアニメーションの体験講座を実施しました。講座では、まず参加者は小田先生による2つのアニメーションの作戦を体験し、その後で理論やしくみ、実施方法などについての説明を受けました。(詳しくは小田先生の記事をお読みください。)



— 第3回 —

図書館専門職への道

(平成26年12月9日・32号館500番教室)

第3回はテーマに紀伊國屋書店ライブラリーサービス部の中馬雅宏先生をお迎えし、資格取得後からの図書館専門職への道筋や技能取得についてのセミナーを実施しました。

「読書へのアニメーション」講座を行って

平成26年11月18日、司書課程の学生や司書講習受講者の方々に、「読書へのアニメーション」講座を行いました。

「読書へのアニメーション」とは、1980年代、モンセラット・サルトによって開発された「読書のおけいこ・トレーニング」で、生き生きわくわくした気持ちで読書を楽しむようにするためのものです(『読書へのアニメーション 75の作戦』柏書房)。対象は本を読もうとしない子・読むことができない子で、幼児期から10代後半まで長期的・計画的に実施することで、読む力が育つというものです。

講座では、その考え方について説明し、実際「読書へのアニメーション」の2つの作戦を体験していただきました。まず、『あたごの浦』(福音館書店)を用いて、作戦26番「ここだよ」を行いました。これは、参加者全員に登場人物の紙人形を配り、お話の中に出てくると「ここだよ」と言って紙人形を上げるゲームで、注意して聞いていないと聞き逃します。もう一つは、『まさかどんがさあたいへん』(小峰書店)を用いて、作戦29番「物語を語りましょう」を行いました。みなさん、配られた質問カードの答えを、もう一度お話を思いめぐらしながら必死で考えていました。

童心に戻り楽しかったようですが、実際自分が行うには準備等難しく感じたようでしたので、実施例の紹介や留意点等についてもお話しました。今後も他の作戦を体験いただき、「読書へのアニメーション」を十分楽しんでいただきたいと思います。



小田 孝子
(別府大学非常勤講師)



別府大学司書課程および司書・司書補講習のあゆみと現状

別府大学では、図書館で働く専門職である司書養成の一環として、県下で唯一の司書課程を設置し、さらに集中講義・演習形式による司書・司書補講習を開講しています。

司書養成教育では、現在の高度情報化社会において多様化する情報資源・技術を反映した図書館奉仕・情報サービスの提供に主眼を置いた先進的な実学教育を実践しています。

司書課程

司書課程は、1961年の開講以来、約半世紀の間約3,600人の司書有資格者を社会に送り出しています。把握している司書課程修了者の卒業時における図書館への就職実績は表1のとおりです。

表1 過去9年間の図書館への就職実績

卒業年月	採用数(人)
平成18年3月	8
平成19年3月	4
平成20年3月	3
平成21年3月	4
平成22年3月	6
平成23年3月	12
平成24年3月	4
平成25年3月	3
平成26年3月	4

昨今の厳しい雇用情勢にも関わらず、司書資格を取得した学生の多くが県内・外の図書館等で勤務しており、情報専門職＝司書として図書館運営の現場を支えています。

2012年4月から、図書館法施行規則の

一部を改正する省令が施行されたことを受け、本年度より司書資格取得に必要な科目に関するカリキュラムの変更を行いました。表2のとおり、図書館情報学に関わる基礎科目や図書館サービス・情報資源に関する科目、および選択科目(計24単位)を履修することで、司書資格の取得ができます。本学では図書館サービ

表2 本学における司書資格取得に向けた開講科目一覧

区分	科目	単位
基礎科目	生涯学習概論	2
	図書館概論	2
	図書館情報技術論	2
	図書館制度・経営論	2
図書館サービスに関する科目	図書館サービス概論	2
	情報サービス論	2
	児童サービス論	2
	情報サービス演習I(情報検索)	1
図書館情報資源に関する科目	情報サービス演習II(レファレンス)	1
	図書館情報資源概論	2
	情報資源組織論	2
	情報資源組織演習I(目録)	1
選択科目	情報資源組織演習II(分類)	1
	図書館基礎特論(アーカイブズ)	1
	図書館サービス特論(絵本製作)	1
	図書館情報資源特論(歴史資料)	1
	図書館総合演習(電子書籍制作・読み聞かせ・ブックトーク)	1

ス特論において、絵本作りを、図書館総合演習では、電子書籍制作・読み聞かせ・ブックトークを行うなど、特色ある授業を数多く展開しています。

また、教員免許状の取得とあわせて、児童・生徒の健全な教養の育成と読書活動、資料活用を目的とした学校図書館の運営に従事する司書教諭の資格取得も可能です。(表3)

表3 司書教諭資格取得に必要な科目一覧

必修科目	単位
学校経営と学校図書館	2
学校図書館メディアの構成 司書に関する科目「情報資源組織論」及び「図書館情報資源概論」と共通(※2科目両方の取得が必要です。)	2
学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2

司書・司書補講習

別府大学では、1961年以来、文部科学大臣委嘱の「司書・司書補講習」を実施しています。2014年度に全国13大学で「司書・司書補講習」が行われましたが、中でも本学の歴史は古く、開講当初より、わが国の図書館界に大きな足跡を残した諸先生方が講師に名を連ねるなど、すぐれた講師陣と恵まれた教育・宿泊環境などと相まって「司書講習の別府大学」として、高い評価を受けています。これまで(2014年度現在)司書6,580人、司書補3,434人、計10,014人の修了者を出し、その多くが全国各地の図書館で活躍しています。

このほか、2004年から、毎年「子どもの読書活動推進研修会」を実施し、学校図書館司書など子どもの読書活動に携わっている人々に研修の機会を設けています。また、2009年には、小・中学校教師向けの研修用DVD教材「深め発見する喜び 言語力とメディア活用能力の向上を目指す教師の支援」を作成し、県内の小・中学校に配布しました。2014年度からは、講習修了者を対象に情報提供能力、コミュニケーション技法の能力開発に主眼を置いた「ステップアッププログラム」を開催しています。

司書講習は、多様なバックグラウンドを有する人材を司書として養成できる唯一の方法であり、幅広い知識と視野の獲得を目指す実学教育に主眼を置いています。